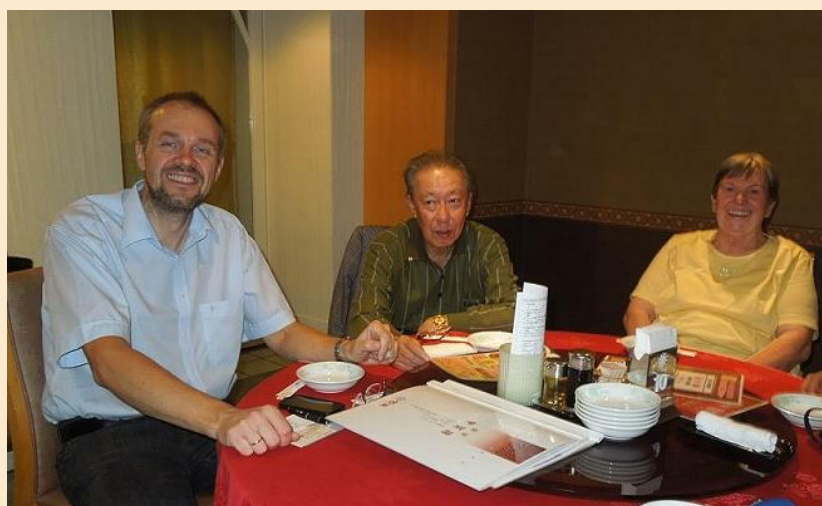


10月例会 スナップショット

大阪国際交流センター・ラジオクラブ



後列：JO3LZG, JO3BAV, DL2KCK (AB2ZE), JA3QUU, JA3IVU, JA3USA, JA3AER, JA3AOP
前列：JK3IYB, JH3AEF, エリカさん, DF2CW



大阪国際交流センター・ラジオクラブの10月例会は、DF2CW吉岐さん、エリカさんご夫妻とお友達のDL2KCKクリスチャンさんをピジターにお迎えして、いつもにまして賑やかな楽しいミーティングとなりました。
写真提供：JA3AER, JO3LZG.



J13ZAG
月例ミーティング
October 2012
photo by
JA3AER
JO3LZG

APDXC
Asia Pacific DX Convention
2 - 4 Nov. 2012
[http:// apdx.org/](http://apdx.org/)



南アフリカ(ZS), ザンビア(ZM), シンバブエ(ZW), ボツワナ(BW)

南部アフリカ4ヶ国旅行記

JA3IVU 北井 十生

10月11日から10日間、南部アフリカ4ヶ国に行ってきました。今回は、久しぶりに関空発で集合が16時だったので午後1時頃に成田のOCATからバスで関空へ、この方が重い荷物を持っている場合、OCATにはエスカレーターやエレベーターがあるため一番楽である。

空港バスで関空4階の国際線ターミナルへ。時間があつたので南アフリカの通貨であるランドへ両替、まさか関空で両替が出来るとは思いませんでした。さすがBRICSの5ヶ国です。16時に集合場所へ、今回は11名のツアー。チケットをもらいまず香港へ行くためのキャセイ航空のカウンターへすぐにチェックインができた。そのとき荷物は最終目的地のケープタウンではなく経由地のヨハネスブルグで一足受け取る。なぜ? よく荷物が行方不明になるため。それにカバンを開け盗難もよくあるとのことでカバンをガムでグルグル巻きにした。もちろんカギなどかけない。(つぶされたら損)

CX507便(KIX-HKG)で席は真ん中で外は見えない。まあ夜間飛行ですから。飛行機B747では乗客はほとんどが日本人の団体と中国人(香港人?)香港経由で南アフリカに行く日本人ツアーがたくさん乗っていた。ほぼ定刻とおりに香港に着いた。新しくなった香港国際空港に到着するのは始めてだ。乗り換えのため南アフリカ航空のカウンターへそして搭乗口へと3時間ほどの待ち時間。ところが定刻になってもなかなかゲートが開かない。30分ほど待てのアナウンスが何回あったかな。そのうち食券を配り出した。こんな時間にいかに香港と言えどもラーメン屋とマクドぐらいしか開いていない。しかたがなくラーメン屋へ。

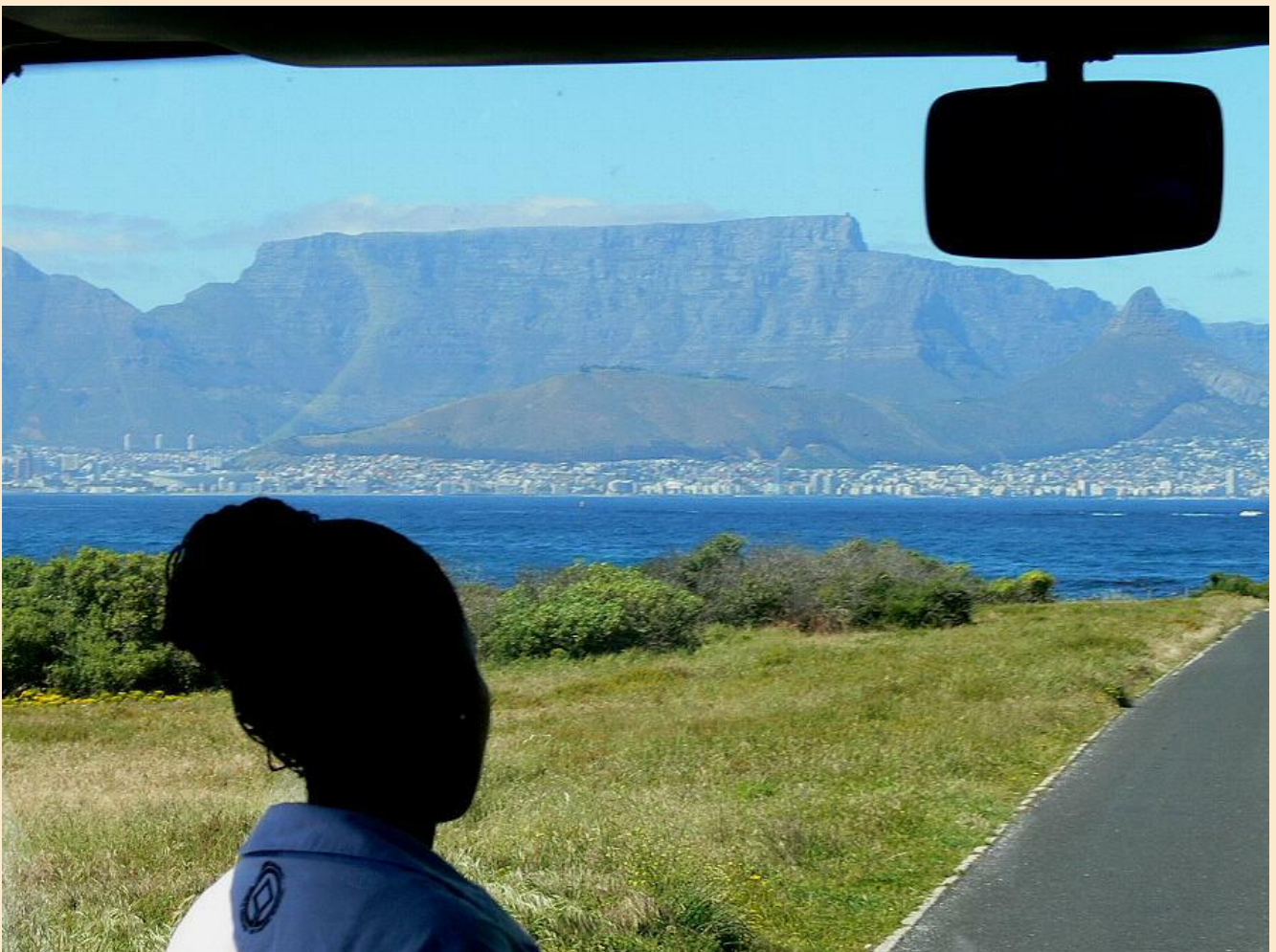
なんと九州の熊本のラーメン屋だった。

SA287便(HKG-JNB)A340-600は午前3時ころやっと香港を出発。眠くて離陸も機内食が出たのもわからなかった。機内は、またまた成田からの日本人ツアーがたくさん乗っていた。

13時間かかって、10月12日10時10分3時間遅れでJNB到着。荷物も無事到着。ケープタウン行きの予定の便は出てしまった。なんとか12時発のSA333便(JNB-CPT)でケープタウン到着。11人なので中型バスにカバン用のトレーを牽引している。午後の観光はクルクル回るロープウェイに乗って「テーブルマウンテン」へ。天気もよく市内がよく見える。もう一つの「カーステポッシュ植物園」は明日に変更してウォーターフロント地区の3泊するホテルへ。窓から「テーブルマウンテン」がよく見える。ホテルから外へは出ないようにこのことなので窓から眺めるしかない。

10月13日、朝から、マンデラ元大統領が18年間収監されていた旧監獄の島「世界遺産「ロベン島」」へ。港から白人、黒人、日本人など満員の双胴船で約30分で島に到着。港に到着すると島を案内するバスが10台ほど。満員になり次第発車した。島内には監獄のほか教会、病院、墓まであった。マンデラ氏が入っていた独房、多数が収容されていた房などを以前に収容されていた黒人男性が熱く説明される。中学生くらいの黒人のグループが真剣に聞いている。

ポルトガル、オランダ、イギリスと三百数十年にわたって隔離されてきた歴史を見た。私たちが国内外の歴史を正確に整理して学ぶことが大事である。



(ロベン島から見るテーブルマウンテン)

街並みはイギリス風で今まで見てきたアフリカのイメージとは全く異なる。これも人種隔離政策のせいでしょうか。

歩いているのはほとんどが黒人で白人は車に乗っている。聞けば例え 100mでも車で行くそうです。

10月14日、歴史に出てくる「喜望峰」へ。途中はお金持ちの別荘ばかり、アザラシやペンギンを見ながら「喜望峰」へ岬の突端は風が強く、インド洋と大西洋が見える。本当のアフリカ最南端はここから150km先にある。

夕食はフリーなので3人でシードフードレストランへ。えび、かに、ロブスターなどとワインで乾杯（飲めないのが残念ですが少しなめる程度いただきました。他の女性かたはグイグイ）

10月15日、朝7時の便なので4時に起こされ空港へ、SA306便（CPT?JNB）で再びJNBへ。定刻とおりに到着したが一人だけでなく乗客全員の荷物が出てこない。



(風が強かった喜望峰にて)



(プレトリア ジャカランダの並木)

1時間ほど待たされてやっと出てきた。

1時間ほど走ってアウストラロピテクスの頭蓋骨が発見された「スタークフォンテン洞窟」へ。ここは金鉱探しの偶然に発見された。中は鍾乳洞で上の林の中に穴が空いていてそこから落下してそのままになった。鍾乳洞といっても秋芳洞のように水がポタポタとは落ちていない。

南アフリカの首都のプレトリアへ。ここもやっぱりイギリス風の街並み。今は「ジャカランダ」の花の季節で紫の桜とも言うらしいがこの花を見に来るのはどうやら日本人だけのようです。ここ街での宿泊は「島本さん」お好きな「シェラトン プレトリア」です。シェラトン、外も中もきれいです。何故か日本人のツアー客がたくさん宿泊しています。

10月16日、朝からバスからも降りて「ジャカランダ」の花を見ました。しかし現地ガイドが指定する場所しか下ろしてくれません。

そしてまたまたJNBへ SA48便（JNB?LVI）でザンビアの北「ソグストン」空港へ。定刻とおりに到着したが「タラップ」を降りると暑い。ブルキナファソを思い出しました。小さな空港で荷物用のターンテーブルが一つ。ワガドゥグ空港によく似ています。空港からは中型バスに荷物用のトレーラを引っ張り、15分も走ると市内をすぎ、ジンバブエとの国境へ、出国と入国審査を済ませ国境の橋をとおひ、すぐ横には水のほとんどない岩だらけのザンビア側のビクトリアの滝が見える。この橋からバンジージャンプができるとのこと。そして、ジンバブエのビクトリア・フォールズの町へ。

今日から3泊するリゾート風のホテルへ。ここも日本人のツアー客がたくさん。EUのツアー客もたくさん。また、中野先生の嫌う蚊だ。いたるところにいる。かど線香を焚いて追い払う。みなさんが焚くため廊下まで線香のにおいが充満しているがそれでも蚊は飛んでいる。部屋には天井から蚊帳がぶら下がっている。

夕方、16時過ぎからビクトリアの滝の上流のザンベジ川の「サンセット・クルーズ」へ、双胴船には同じ旅行社の東京組24人と大阪組11人の日本人ツアー2組が乗船。当然、大阪組が元気そのもの東京組はお淑やかです。
カバ、ゾウ、ワニなどの動物がのんびりしている。船上の人間さまはアルコールが入り上機嫌。やがてサンセットへ。夕陽が水面照らし、カバがときどき顔を出す。

10月17日、朝から車で約1時間走り、となりの国ボツワナへ。また出国と入国した、この二カ国の間は車を持ち替えるため徒歩で国境通過。入国の際には靴の裏を消毒はした。ここからはトヨタのランクルを改造したテントの屋根だけある9人乗りのサファリカー（東條さんの車とは少し違うようでボンネットの前には人は座っていませんでした。）でゲームサファリへ

ザンビア、ジンバブエ、ボツワナの観光用の車にはアイコムFM無線機とウエダ無線で販売しているビジーのアンテナが設置されている。（おそらく150MH帯）フロントガラスには無線局運用許可書が貼ってあった。（ここまで見るとはかなり重傷の職業病です）

国境から20分ほど走り、ザンベジ川の上流の「チヨベ国立公園」へ。約1万平方キロの大きさの動物保護区に「ゾウ、カバ、ライオン、ヒョウ、キリン、ワニ、イボイノシシ、バッファロー、多種の鳥」が生息している。

大きいゾウ、カバなど簡単に見つかるがライオン、ヒョウなどは木陰に隠れているためなかなか私たちには見えない。しかし現地の運転手兼ガイドは木陰の間にいるライオンやヒョウを見つけ出す。遙か遠くにいる豆粒の大きさしか見えないゾウやカバも見つける。一体、視力は???? 10.0くらいありそう。すごい人は20.0以上もあったそう。

途中、大きな身体のまわりにハゲタカが・・・よく見るとゾウが横たわっている。弱肉強食の世界だ。

なにしろ屋根しかないので砂ぼこり、風がまともにあたる。女性かたはアラブゲリリのごとく覆面をしているのでそれを見た白人が写真を撮っている。白人の女性かたは何もしていない。

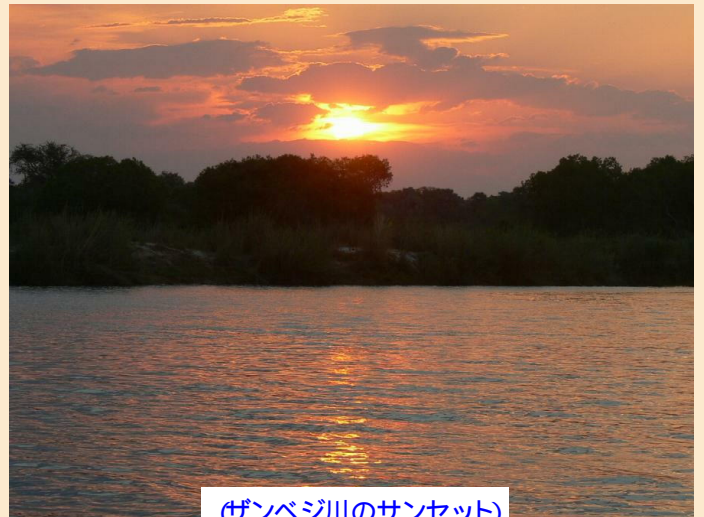
昼食後、今度はポートサファリ、小さな双胴船に乗り川辺にいる「カバ、ゾウ、ワニ、イグアナ」を見た。乾季なので水位が低く川の真ん中に島が出来ており、そこに生える草を食べにカバが川から上がってきている。

夕食は、さきほど見てきたワニなどの野生動物の肉のバーベキュー。やはり人間が一番恐ろしい動物かも。

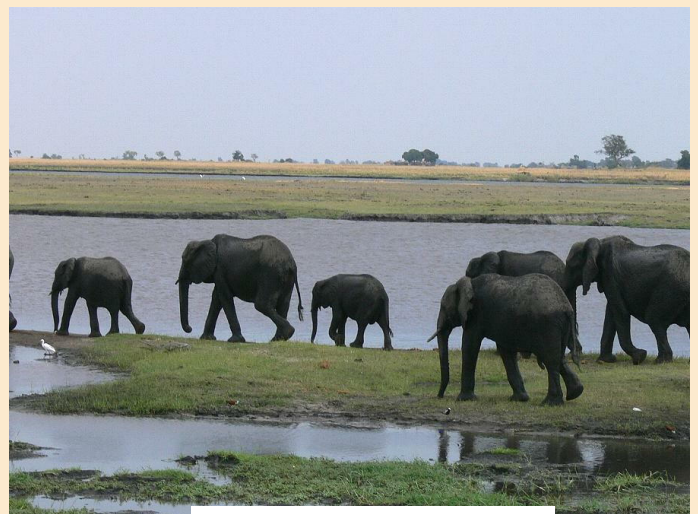
10月18日、いよいよビクトリアの滝へ、まずはジンバブエから滝の半分以上は岩だらけで水がない。ジンバブエ側だけは滝になっており、虹もきれいに見えた。水量が少ないため水しぶきはほとんどなく濡れずに済んだ。イグアスの滝のときとかなり違う。やはり乾季のせいかな。今度は雨期にきてびしょ濡れになるかな。



(ザンベジ川のカバ)



(ザンベジ川のサンセット)



(チヨベ国立公園 ゾウの親子)



(サファリカーとドライバー兼ガイド)右タイヤの上にビジーのアンテナ

その後、この町にある小学校を訪問した。学校は1年生から7年生まで1900人ほどの児童が通学している。教室や先生が不足しているので午前と午後の2部制になっている。ある教室を訪問すると女子児童が歌を歌ってくれた。ジンバブエの国歌だそう。教科書、鉛筆、ノート、机、椅子なども不足しているとのことであったが子どもたちは一生懸命、勉強している。また、余るほど水が近くにあるのに飲料水は不足している。学校に来ると水がもらえるので通学する子どももいると校長先生は言っておられた。私たち日本人は恵まれすぎているのか。
午後は、ヘリに乗って上空からビクトリアの滝を見る。水量の少ないのが一目でわかる。15分ほどフライトでした。（ちなみに料金は140\$です。）

10月19日、いよいよ帰国する日が来た。途中、国境を越えてザンビア側から水のほとんどないビクトリアの滝を見る。

北マングストン空港からSA49便 (LVI?JNB) 南アのヨハネスブルグへ 途中 雲の中に入り機体が上下に揺れる。そのとき

昼食を配膳していたCAがバタンと倒れた。どこかで頭をつたよぶた。倒れて起き上がってこない。すると医師とおもわれる乗客のひとりの女性がかけつけ処置している。機内は心配顔でいっぱい。しばらくすると両肩を支えられ機尾へ 椅子にすわり到着するころには元気になっていた。

SA 286便 (JNB - HKG) 16時50分発で香港へくま13時間ほどのフライト 日本人と中国人の乗客ばかり 帰りは疲れていたためと夜間飛行でほとんど寝ていた。

定刻より少し早く香港に到着し、3時間ほど待ってCX502便 (HKG?KIX) 16時20分発で無事に関空に到着、荷物も無事出てきた。ところが税関で中味を見せると なにもあやしい物が入っていないですみずみまで見て貰った。このようなことは初めてだった。やはりカバンにガムテープを巻いていたのがまずかったのかなと……

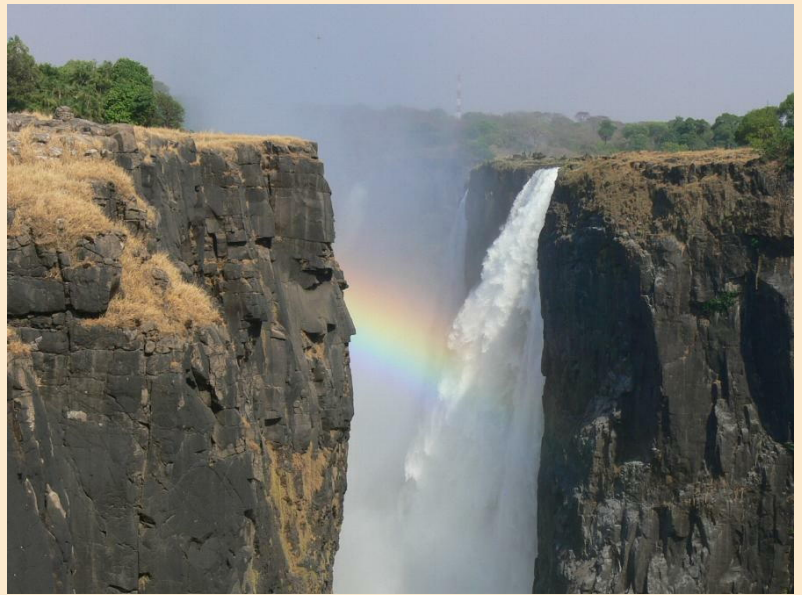
無線のこと

道中、走りながら外を見たがアマチュア無線用のアンテナは見かけなかった。

携帯電話用、放送用、業務用のアンテナはあちこちで見かけた。

4ヶ国を回って

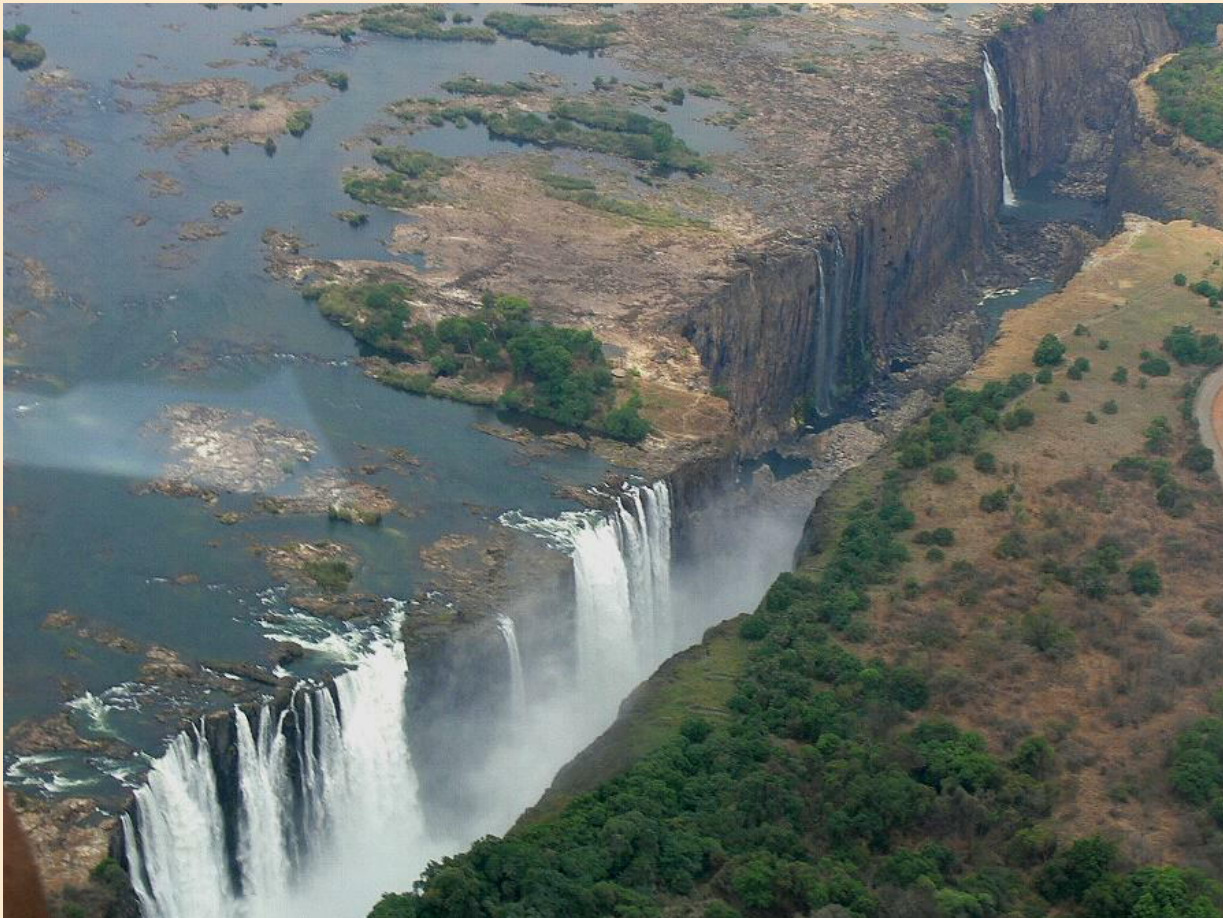
南ア、ザンビア、ジンバブエ、ボツワナのほんの一部しか見ていないが南アの都市部は今までアフリカのイメージとはかけ離れていた。イギリスそのものと感じた。少し街をはずれるとやはりアフリカという感じで40年足らずの白人支配から抜けるにはあと何年かかることかと。他の3ヶ国はほとんど同じように見えたが少しは違うらしい。いずれの国も元はイギリス領である。ザンビアは昔、北ローデシアで東京オリンピックの閉会式ではザンビアに、ジンバブエは南ローデシアと呼称していたとのこと。



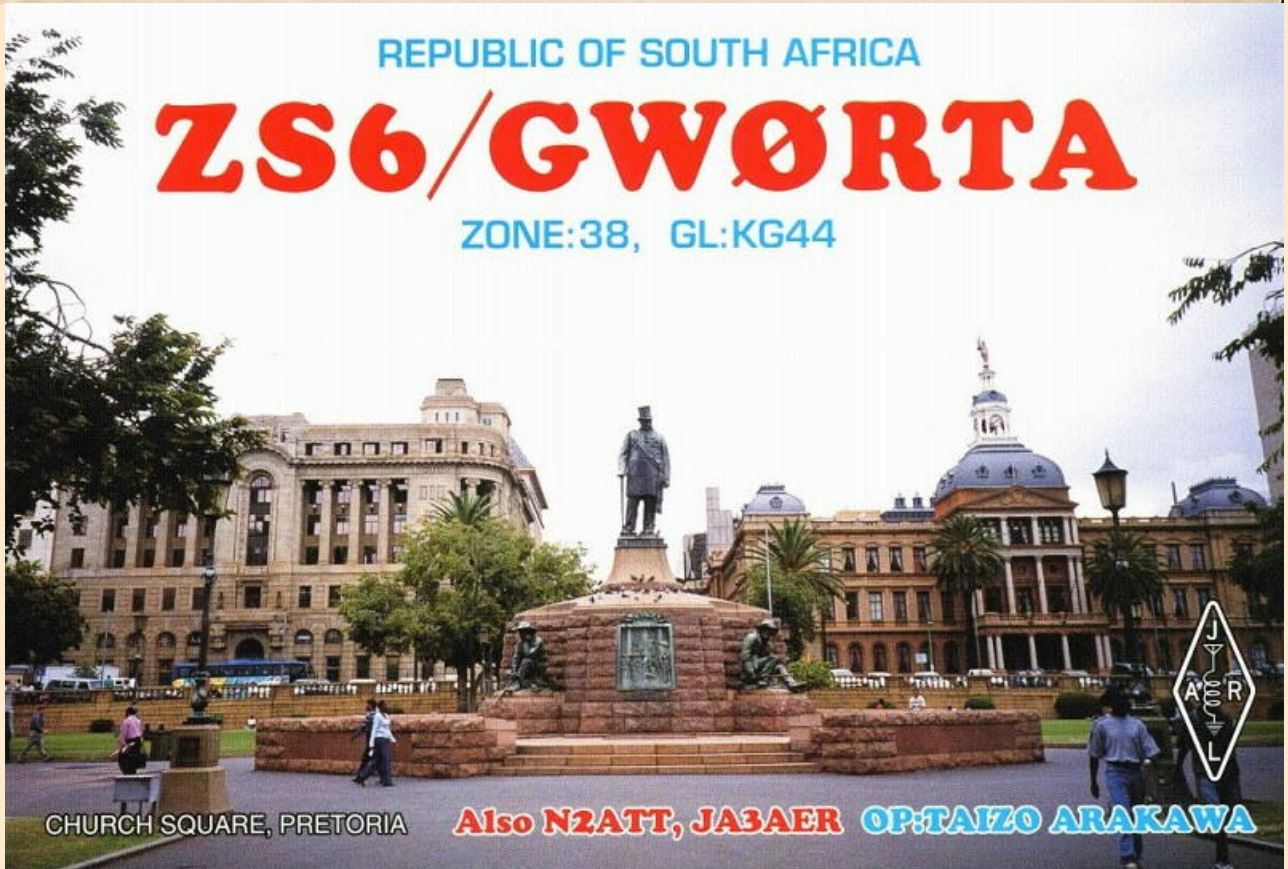
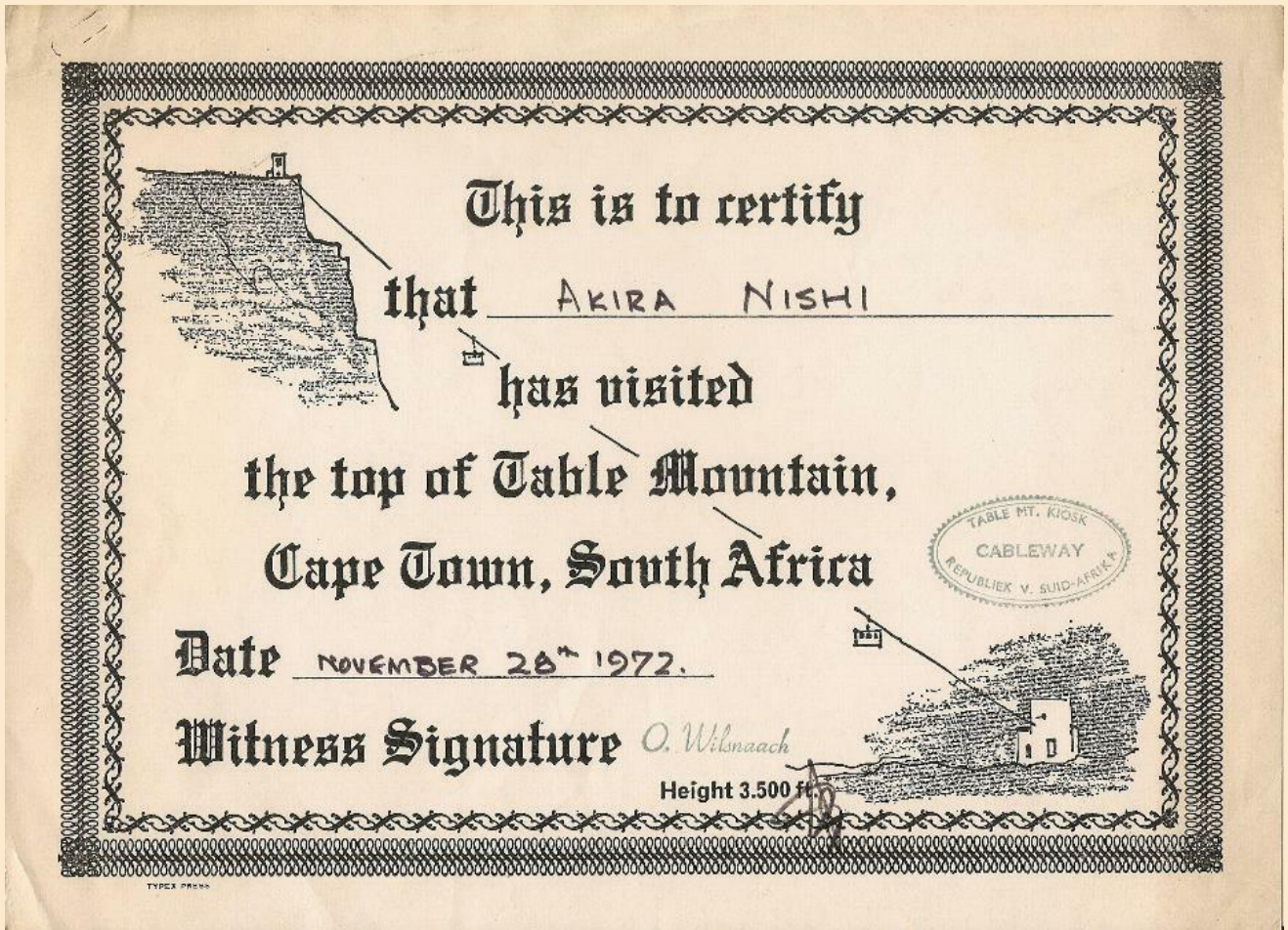
(ジンバブエ側からのビクトリアの滝)



(ビクトリア・フォールズの町の小学校)



(空からみた
ビクトリアの滝
右上がザンビア側
水がない)



9月号のJH3AEF/東條さん、今月のJA3IVU/北井さんのアフリカ旅行記に因んで
 JK3IYB/西さんのテーブル・マウンテン登頂証明書と荒川さんの西アフリカでの運
 用のQSLカードを掲載させていただきます。 JA3AOP/杉山 暁